

令和元年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した
障害者スポーツの実施環境の整備事業）成果報告書

令和2年4月
（川崎市）

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、川崎市が実施した令和元年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

事業成果について

取組の名称	障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）
目的	<p>本市においては、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、パラリンピックに重点を置いた「かわさきパラムーブメント」を掲げており、障害者スポーツの推進に取り組んでいる。</p> <p>障害者スポーツの普及促進にあたり、当事者が生活圏内において活動出来る環境づくりは必要不可欠である。その点においてスポーツを手段として人づくり・まちづくり・未来づくりを総合的に行なう最適な場として総合型地域スポーツクラブがある。</p> <p>障害者の継続的なスポーツの実施促進に向けて、各地区の課題に対応した障害者スポーツの推進体制の強化、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図ることを目的とする。</p>
取組内容	<p>1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組</p> <p>2. 実行委員会の開催</p>
成果と課題	<p>1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組</p> <p>(1) 障害理解啓発コンテンツの水平展開</p> <p>4年間の取組成果である障害理解啓発コンテンツを市内に水平展開するため、対象に応じて内容を精査・再構築し、その実施過程や効果を検証した。</p> <p>ア スポーツを通じた障害理解啓発プログラム</p> <p>(目的)</p> <p>絵本を活用し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図るなど、スポーツを通じ、多様性を尊重した社会の実現を目指す。</p> <p>(実施内容)</p> <p>小学生を対象とした障害理解啓発のための絵本を活用した障害理解啓発プログラムについては、市内小学校における授業への導入のため絵本活用研修として希望教員を対象に開催した。</p> <p>また、市内小学校、特別支援学校への絵本の配布に加え、福祉系の進路を志望する生徒等への活用を図るため、市内中学校・高等学校へ配布した。さらに、市民への普及を広げるため、川崎市立図書館や各区スポーツセンター等へ配布した。</p> <p>【絵本活用研修】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

実施回数：1回

参加者：25名

内容：授業の構成方法についての説明

絵本の読み聞かせ

班毎に障害の疑似体験によるスポーツアレンジ、発表

振り返り、まとめ

アンケート結果：〔別紙1参照〕

(成果・課題)

アンケート結果から、受講することで、具体的に授業での活用方法をイメージすることができた等、課題の達成に対して前向きな回答が多く得られた。個人のレベルアップだけではなく、学年会・教科等のグループで共有することで、研修会の効果が向上するとの回答が多くあげられた。

研修後、受講した先生方が、各学校の教育活動において、絵本の読み聞かせ、ワクワクをなくしてワクワクをつくれる人を増やしていこうと取り組んだ事例がいくつかみられたことから、研修を実施したことによって、市内各学校において絵本の活用が図られ、児童・教職員の中で障害に対する理解が広がったと考えることができる。

今後の課題として、さらなる推進のためには、継続して啓発を図ることが必要である。来年度も、福祉教育の研究協力校情報交換会などで教職員向けの研修を行い、教職員の理解を深めていきたい。各学校や市内で絵本が活用され、多様性を尊重した社会の実現を目指すことができるよう継続して取り組んでいくことが大切である。

【絵本追加作成・配布】



作成数：1,220冊

配付先：市内小学校・特別支援学校・中学校・高校、大学、
市立図書館、社会福祉協議会、各区スポーツセンター、
こども文化センター等

(成果・課題)

配布先での取組として、今回新たに絵本を配布した川崎市立図書館では絵本コーナーにおいて令和2年3月4日～3月15日に当絵本を活用した「ワクワクのつくりかた」企画展示を行った。新たな配布先での活用により市民へ障害の理解が広がったと考えることができる。

今後の課題として更なる市内への普及を図る必要がある。そのため、絵本が配布先でどのように活用されているか情報共有を行い市民へ障害理解を広げていく。

イ オープンエアメーカー（障害理解サポーター）養成講習会 【スポーツセンター講習会】



(目的)

大人を対象とした障害理解啓発のための講習会プログラムを、スポーツを「する」場のひとつであるスポーツセンターの職員や教職員等へ実施する。

(実施内容)

市内7区にあるスポーツセンターでスポーツセンター職員を対象に講習会を実施した。1時間の講習の中で、オープンエアメーカーの考え方、オープンエアスポーツの作り方などの講義を行いアンケート回収した。

実施回数：7回

参加者：111名

内容：障害に対する考え方

オープンエアメーカーの考え方

オープンエアスポーツの作り方

アンケート結果：〔別紙2参照〕

(成果・課題)

アンケート結果より、ほとんどの受講者から意識の変化や、今後の業務へ活かしていきたいといった前向きな意見をいただくことができ、スポーツを「する」場の一つであるスポーツセンター職員に対しオープンエアメーカーの考え方を広げ、意識啓発を図ることができ、障害者にとって身近なスポーツをする環境の整備に繋がった。

今後の課題として、障害のある方に日常的にスポーツをする場を提供するスポーツセンター職員においても、障害者との関わりが少ない人は、障害のある人と接するにあたり、遠慮や戸惑いがあることが分かった。障害のある人と普段から交流できる場を作り、引き続き意識啓発を図っていくことが大切である。

【DVD制作】

(目的)

大人を対象とした障害理解啓発のための講習会プログラム（オープンエアメーカー養成講習会）をスポーツ指導者をはじめとした様々な対象に対して、時間的、場所的な制約をなくし、広く効果を展開するため、DVDを制作する。

(成果・課題)

作成数50枚

制作過程において、実行委員会の各委員や養護学校教諭から意見を聴取し内容に反映した。

今後の課題として、作成したDVDを活用しオープンエアメーカーの考え方を普及していくことが挙げられる。DVDについて配布を行うだけでなく、DVD活用のための講習会を実施し更なる啓発を図っていく。

(2) 地域等と連携した障害者スポーツイベント等の実施

(目的)

市内において、地域や団体と連携して障害理解啓発を目的としたイベントを実施し、障害者がスポーツをする機会を創出するとともに、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて、楽しみながら障害に対する理解を高めることのできる機会の提供を図る。

また、特に「地域等と連携した障害者スポーツイベント（秋の遊び場 in たかつ）」については、登録者数や活動内容に大きな差があり、単体のクラブで事業の受託が難しい市内の総合型地域スポーツクラブが、共同体である「川崎市総合型スポーツクラブネットワーク」の一員として、障害者スポーツイベントの手法やノウハウについて、同イベントの企画・コーディネートから実施までの業務を通じて習得することで、その後、各クラブにおいて継続的に障害者スポーツイベントを実施する土台作りを目指す。

(実施内容)

市内において、地域や団体と連携して障害理解啓発を目的としたイベントを10月26日に市内にある県立高津養護学校にて実施し、障害者がスポーツをする機会を創出すると共に、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて障害に対する理解を高めることのできる機会を創出した。

川崎市長杯ボッチャ大会については、3/1（日）に実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった。

【地域等と連携した障害者スポーツイベント（秋の遊び場 in たかつ）】



実施回数：1回

参加者：約280名

内容：スポーツ縁日エリア

（ボッチャ、輪投げ、トランポリン、スカットボール、バスケットゴール、スナッグゴルフ、バッキー、PKサッカー）

スペシャルプログラム

（スポーツ教室、人形劇、フェイスペイント）

発表エリア

（ダンス発表、合唱・合奏の発表）

模擬店

（養護学校のおやじの会（保護者）、地元飲食店、商店街、JAより出店いただいた）

アンケート結果：・どのスタッフの人も優しくかったです。

・地域に開いてもらえて楽しみが増えます。

・参加型のスポーツイベントはありがたいです。

・また来年も楽しみにしています！

といった意見が寄せられた。

(成果・課題)

特別支援学校を拠点として開催し、在校生・卒業生にもスタッ

フとして混ざってもらふことにより、障害者とともにイベントの運営やスポーツを楽しむ場を作ることができ、障害理解啓発につながった。また、スポーツ体験の場にボッチャなどの種目のエリアを設けることにより、近隣の小・中学生や地域住民も気軽に障害者スポーツに触れる機会を創出することができた。

課題としては日程の都合等の関係で川崎市総合型スポーツクラブネットワークからの参加クラブが少なく、クラブ間でのイベントの手法やノウハウの取得が難しかった点が挙げられる。今後は団体だけでなく、地域で活動する個人を含めた人材育成や活用を行うことが重要であると考えます。

【第1回川崎市長杯ボッチャ大会】

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止。

応募者数：162名（選手のみ）

レクの部（誰でも参加）の応募チームが、募集チーム数の16チームを上回り38チームの応募があった。出場可能チーム数を追加し、24チーム出場可能とした上で応募チームの抽選を行い、参加チームを決定した。

障害のある方のみ参加できるレク部門についても応募チーム数の16チームを満たす応募があった。

8歳から87歳まで幅広い年代の方にお申込みいただいた。

予定内容：競技の部とレクの部に分かれて予選リーグを行い、その結果、各グループの上位者が決勝トーナメントを行い、決勝トーナメントに出場できなかったチームは競技の部とレクの部のチームで交流戦を行う予定であった。競技の部とレクの部の決勝トーナメント1位～3位を表彰する予定であった。

（成果・課題）

幅広い世代からの参加や、応募チーム数を上回る申込から、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて楽しみながら、障害のある人と交流し障害に対する理解を深めることのできる機会の提供を図る見込みがあったことが分かる。

中止となったため、課題を得ることはできなかったが、今後についても引き続き市内へのボッチャ普及の取組を進めていく。



2. 実行委員会

有識者、スポーツ協会、特別支援学校、スポーツ推進委員、身体障害者協会、障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ等の代表者及び行政関係部署により構成する実行委員会を3回（8月、12月、3月）開催した。

その中で、障害理解啓発プログラムの水平展開に関わる手法や、総合型地域スポーツクラブ等と連携した障害者スポーツイベント等について協議・検討するとともに、実施の方向性について決定を行った。

・実施成果

(1) 第1回実行委員会

開催日：令和元年8月2日

- 成果：・**スポーツを通じた障害理解啓発プログラムについて**
絵本の配布先として私立小中学校や大学といった提案があった。教員向け研修については複数回の実施、受講した教員の感触やその後の取り組みについて情報共有したいといったご意見をいただいた。
- ・**オープンエアメーカー養成講習会について**
DVDの制作について、製作者側の意図が伝わるように文言等を配慮すること、委員の意見を反映できるよう制作スケジュールを調整すること等のご意見をいただいた。
- ・**地域等と連携した障害者スポーツイベントについて**
川崎市長杯ボッチャ大会について、大学のボッチャサークルの活動成果を試す場として参加してみたい、指導者が不足しているため講習会の情報共有を行っていききたいといったご意見をいただいた。

(2) 第2回実行委員会

開催日：令和元年12月6日

- 成果：・**スポーツを通じた障害理解啓発プログラムについて**
教員向けに実施した絵本活用研修会について、実際に体験することで理解が深まり、実施方法について分かったことが多くあったとご意見いただいた。また、教員の方に川崎市で年2回実施している「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」についても受講し経験を積んでいただきたいといったご提案をいただいた。
- ・**オープンエアメーカー養成講習会について**
DVDの制作について、YouTubeに掲載し全世界へ発信していただきたい、制作過程で当事者団体に確認を行った方がよいといったご意見をいただいた。DVDに使用するスライドの内容について、言葉の使い方や表現の確認を行った。
- ・**地域等と連携した障害者スポーツイベントについて**
秋の遊び場 in 高津のイベントについて、卒業生にスタッフになってもらい繋がりをつくる取組が良い、地域との連携やつながりを作ることができる等のご意見をいただいた。
- 川崎市長杯ボッチャ大会について、参加したい、参加が少なければ実行委員会でもチームを作ろう等のご意見をいただいた。

(3) 第3回実行委員会（書面開催）

会議資料送付日：令和2年3月26日

議題：・令和元年度「障害者スポーツ推進プロジェクト」委託
事業完了報告に伴う業務実績報告書（案）について
・令和2年度の取組（案）について
協議書により承認された。

【まとめ】

本年度は教職員やスポーツセンター職員への講習会の開催や、障害のあるなしに関わらずスポーツを楽しむことのできるイベントの開催を通じて、障害者がスポーツをする機会の創出を行うことができた。

今後も、障害者の継続的なスポーツの実施促進に向けて、身近な場所でスポーツができる環境づくりに継続して取り組んでいきたい。

実施日程表(実績)

実施時期	実施事項			備考
	実行委員会	スポーツを通じた啓発プログラム	オープンエアメーカー講習会	
4月				
5月				
6月				
7月				
8月	第1回 8/2	絵本活用研修 8/7		
9月			①9/24	
10月		絵本 印刷 契約 納品	②10/28	啓発イベント 10/26
11月			③11/25	
12月	第2回 12/6		④⑤12/23	
1月			⑥1/27	
2月			⑦2/25	
3月	第3回(書面)			ボッチャ大会 3/1(中止)

※ 実施事項は、委託事業完了(廃止等)報告書の記載内容との整合性に留意し記載してください。

障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会名簿

所属	役職	氏名
【学識者】		
田園調布学園大学	准教授	かのう ひでとし 和 秀俊
【関係団体】		
高津区スポーツ推進委員会	委員長	こん きよふみ 今 清文
市立特別支援学校	校長	よしだ やすし 吉田 宴
川崎市障害者スポーツ協会（公益財団法人川崎市身体障害者協会）	事務局長	よこしま まさし 横島 正志
公益財団法人川崎市スポーツ協会	事務局長	たんの のりかず 丹野 典和
川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター	所長	つかだ はるたか 塚田 治孝
川崎市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	会長	きくち ただし 菊地 正
川崎市障がい者スポーツ指導者協議会	会長	いしだ さち子 石田 さち子
特定非営利活動法人チャレンジサポート プロジェクト	理事長	きたむら すずむ 北村 奨
【川崎市庁内連携部署】		
川崎市市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室	担当課長	なるさわ しげゆき 成沢 重幸
川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害福祉課	課長	すながわ やすひろ 砂川 康弘
川崎市教育委員会事務局総務部（教育改革推進担当）	担当課長	そえの まさみ 添野 雅美
川崎市教育委員会事務局学校教育部健康教育課	担当課長	へんみ るみ子 邊見 るみ子
川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課	担当課長	いなば たけし 稲葉 武
【事務局】		
川崎市市民文化局市民スポーツ室	室長	やまね たかゆき 山根 隆之
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔企画調整担当〕	担当課長	はたけやま ともき 畠山 知樹
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔地域スポーツ担当〕	担当係長	うえはら あや 上原 彩
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔地域スポーツ担当〕	事務職員	とみた いずみ 富田 泉
【議事説明員】		
特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブ S E L F		とぬま ともたか 戸沼 智貴

絵本活用研修 アンケート結果まとめ

○参加者（計 25 名）

川崎市立学校教職員（小学校 16 名・中学校 3 名・高校 3 名・特別支援 1 名）

その他 2 名

○アンケート結果抜粋

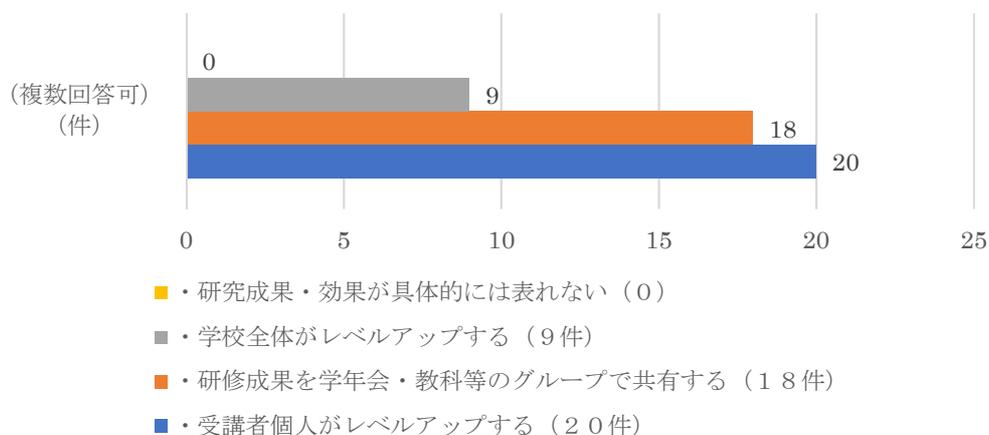
自分なりの課題意識をもって臨むことができた



研修を受講して課題を達成することができた



受講後の研修成果・効果の表れ方



・自由記述

受講して良かった、またこのような機会がほしい、子どもたちの学習に生かしていきたいといった前向きな記述が多かった。

オープンエアメーカー養成講習会 アンケート結果まとめ

○参加者（計111名）

川崎市内7区にあるスポーツセンターの職員（全7回実施）

○アンケート結果抜粋

1 まわりに障害のある人はいですか

A…障害のある人と普段から交流している、と答えた方

B…まわりに障害のある人はいるが交流していない、と答えた方

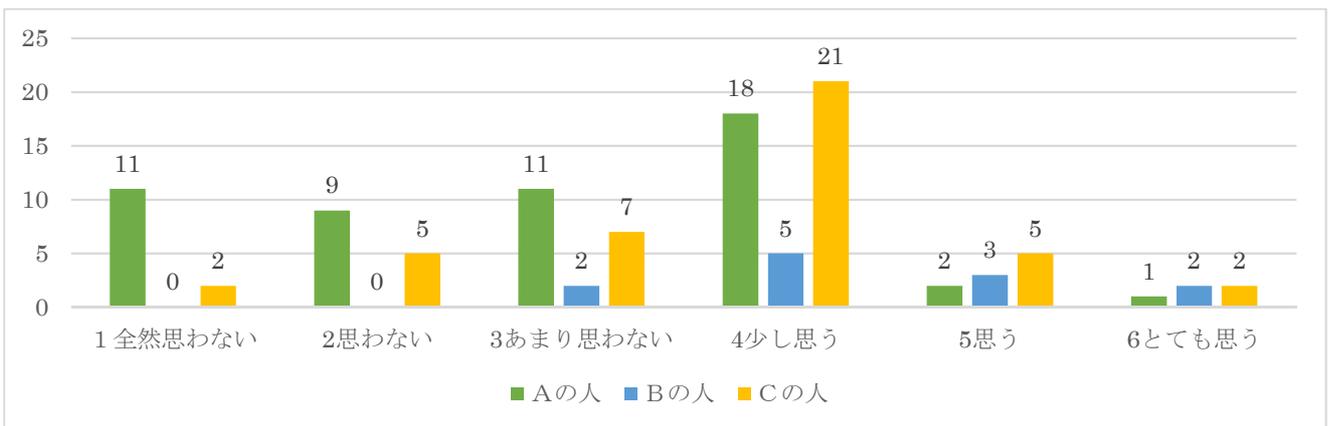
C…まわりに障害のある人がいない、と答えた方

a. まわりに障害のある人はいですか。
(はい、いいえ)
b. aで「はい」と答えた人は普段からその人々と交流していますか。

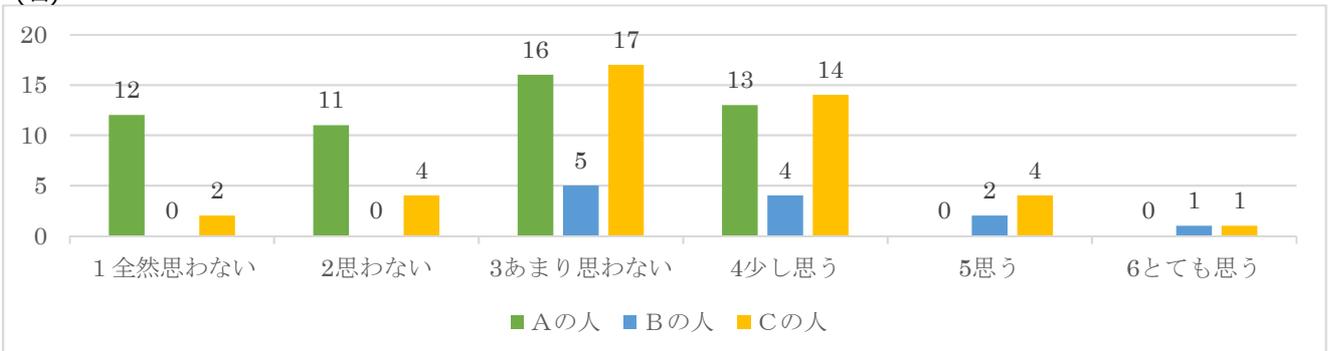


2 あなたは、障害のある人についてどのように思っていますか。

(1) 手を貸すか貸さないか躊躇してしまう
(名)



(2) 気軽に声をかけられない
(名)



[分析]

まわりに障害のある人はいるが交流していないと答えた B の方と、まわりに障害のある人がいないと答えた方 C の方に対し、普段から障害のある人々との交流がある A の方は、障害のある人に手を貸したり、声掛けをしたりすることに、抵抗のない方が多い傾向があった。

3 本講習会の感想（受講前と後の気持ちの変化）・メッセージなど

・ Aの方（障がいのある人と普段から交流していると答えた方）

- ・ 障害のある方もない方も、それぞれ本人が気持ちよく幸せを感じられる事が重要であると痛感しました。今、自分もそれができているか改めて反省させられました。ありがとうございました。
- ・ まずは障がい者とは何なのかを改めて考えさせてもらいました。スポーツセンターなどでは、接する機会が多いので、接し方にも気をつけていくべきだと感じました。
- ・ 自分自身がオープンエアメーカーになり得るということ、また、それが難しいことではないということに気付かされた。

・ Bの方（まわりに障がいのある人はいるが交流していないと答えた方）

- ・ 障害者の人とは、正直壁があると思っていましたが、受講してみてもあんまり壁はないし、少しの声をかけるだけで良いのだと分かり少し、接するのが楽になるような気がしています。相手のことを改めて見てその人の意見をきいて支えられるようになれればと思いました。
- ・ 障がい者をむかえる事に対しての不安が、障害であるにとらえた事がなかったのそれに気付いて良かった。

・ Cの方（まわりに障がいのある人がいないと答えた方）

- ・ スポーツセンターにも障がいのある方がいらっしゃることもあり今日うかがったことが少しでも役に立てればと思いました。
- ・ 自分が障害者なのか健常者なのかという質問にはドキッとさせられました。障害だけでなく、その方が何を求めているのか、助けを必要としているのは何なのか、人対人として、接していけたらと感じました。ありがとうございました。
- ・ 正直、自分とは関わりが身近にないため、深く考える機会が少なかったように思います。（他人事に思っていなかったなだと痛感しました。）自分にも関係することだと気付きました。今後も分け隔てなく、誰に対しても相手の気持ちをまず尊重し、お互いに心地よい環境作れるよう、努めていけたらと思いました。